巻頭言　第24回参議院議員選挙を振り返って

理事　千葉県議会議員（千葉市稲毛区選出）　**天野　行雄**

第24回参議院議員選挙は、７月10日に執行された。私たち民進党所属議員の立場からすると、この選挙は民主党から民進党へと変わり最初の通常国政選挙であり、維新の党との合流の成果が問われる選挙戦であった。

民進党の選挙結果は、全国の選挙区で21議席、比例区では11議席と合計32議席を確保し、６年前と比較すると12議席の減という結果であったが、一定の前進を果たしたと判断する。ただし、千葉県選挙区においては現職２名の候補者を擁立したが、小西洋之候補は３位で当選、水野賢一候補は５位で落選という残念な結果となった。元々、千葉県連としては、選挙区に２名の擁立は無謀な選択であることを、党本部に対して上申していた事も事実である。

全体では、自民・公明の与党が、目標としていた改選議席の半数を大幅に上回った。自民党は27年ぶりの参議院単独過半数を確保している。この結果、憲法改正に前向きな大阪維新の会などの政党を加えると、憲法改正案の発議に必要な参議院の３分の２を確保した。既に、衆議院では自民・公明だけで３分の２を超えており、衆参両院で憲法改正案の発議が可能な改憲勢力が確立されてしまった。

また、この選挙より18歳選挙権が導入された。総務省の抽出調査によると投票率は18歳で51.17％、19歳で39.66％という結果であった。18歳では都道府県により29.82％から64.88％と相違があり、千葉県は54.93％と平均を上回る結果となった。今後、この結果は分析されると思うが、投票率はこれまでと同様に、若年者は低く、高齢者は高いという傾向に変化はなく、政党により高齢者に偏重した政策展開の継続が想定され、何とかこの傾向を改善して行かなくてはならない。

選挙戦の争点は、国民からはどの様に見えていたのだろうか。安倍政権は、当初憲法改正を争点に掲げていたものの、選挙戦において不利な展開が想定されるため、アベノミクスを争点とし政策の成功を強調してきた。一方の野党側は、争点として憲法改正やアベノミクスの失敗を強調したが、有権者からの反応は弱かった。また、ある調査会社の統計では、東京エリアの参議院選挙に関連する放送時間が、前回の参議院選挙（2013年）よりも３割近く減っていて、特に民放では６割減少していたと報告されている。これは政府与党が憲法改正の争点を隠した影響とも言われているが、どういう事なのだろうか。

民進党から見ると、選挙戦の争点であった安部内閣の「ニッポン１億総活躍プラン」は看板倒れだと判断している。保育士や介護職員の処遇改善、長時間労働の是正、同一労働同一賃金など、私たち民進党の政策をコピーしたような内容となっている。それではその政策の実現に向けて与党は協力するか、というと全く逆の行動をとっている。実態を報告すると、民進党が提出した介護職員等の給与を月額１万円引き上げる法案に反対して否決、保育士等の給与を月額５万円引き上げる法案に対しては審議拒否。長時間労働規制法案については審議拒否をしただけでなく、逆に長時間労働を倍増する残業代ゼロ法案を成立させようとしている。そして同一労働同一賃金の法案に至っては、2018年と遙か先の提出となる見込みである。

この様に、国民から見える場所では正義をかざし、見えにくいところではしたたかに対応するという、国民の視線を欺く与党の姿勢は決して許すことは出来ない。

思いを新たに、戦後日本人が育み、培ってきた「立憲主義」「平和主義」「民主主義」といった基本的な価値や権利を護り、安定した国民生活の実現を目指していきたい。